

○議長 辻本 一夫君

次に3番、長島議員の一般質問を許します。長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

3番、長島です。通告書と資料をもちまして、質問のほう始めさせていただきます。

現在もコロナウイルスの猛威が全国で続いており、緊急事態宣言も発令している中、芦屋町でのワクチン接種も順調に進んでおります。これもひとえに医療従事者の方々、職員の皆様の多大なる御尽力だと心より敬意を表します。また、東京オリンピック・パラリンピックも残すところあと2日ですが、コロナ禍で残念ながら1年間の延期や無観客での開催、また、準備期間には数々の人事案件のトラブルやボランティア問題なども露呈してしまいましたが、日本選手団のメダルラッシュが続いており、改めて我が国日本を誇りに思うことができ、よくも悪くも新しい日本のPRが国内、また国外にできたのではないのでしょうか。

現在芦屋町では、海岸線の魅力を最大限に生かした観光まちづくりによる地方創生を推進しておりますが、この重要な施策として芦屋港活性化事業に取り組んでおります。オリンピックではないですが、この事業の開業までの準備期間をいかに有効に活用していくかが重要であると思われる、具体的には、人を育み未来へつなぐための人材発掘と育成、また「魅力を活かし みんなでつくる 元気なあしや」を町内外に向けていかに発信していくか、いかに町民との協働で観光まちづくりにつなげていくか、このことが海岸線を生かした芦屋町の活性化、また芦屋町民がふるさとを誇りに思い、ふるさとの魅力を再認識するための非常に大事な期間だと思います。

そこで、今回は将来を見据えた外向きのPR、件名1、町外への芦屋町の魅力発信についての質問をしたいと思います。

要旨1、芦屋港活性化における機運醸成事業について。

本年度計画されている芦屋港活性化機運醸成事業の進捗と、今後の展開についてお伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

執行部の答弁を求めます。芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

まず、機運醸成事業の概要を説明させていただきます。芦屋港活性化では町内の事業者をはじめ多くの方々に積極的に関わっていただいたり、活用していただくことが大切な視点だと考えております。また、町内外の方々には期待感を持ってもらうことが将来的な芦屋港周辺エリアへのにぎわい創出、活性化につながるものと考えております。このため、市場性の把握や「ヒト・モノ・コト」をつなぐためのテストマーケティング、期待感を持ってもらう情報発信、これらを担っていく人材の発掘と育成、こういったものを一体的に進めていこうというものでございます。

令和3年第3回定例会（長島毅議員一般質問）

進捗状況につきましては、10月から事業を推進できるよう現在準備を進めているところでございます。

次に今後の展開ということですが、昨年度、事業展開の考え方をロードマップとしてまとめております。本年度をスタートの年とし、PDCAを繰り返しながら社会情勢の変化に柔軟に対応しつつ段階的にステップを踏み、推進していく考えでございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

ありがとうございます。非常に積極的な展望を聞いて安心しております。

町の人からも「港には何ができるの?」、「何をつくるの?」、「いつできるの?」と大変多く聞かれます。それだけ興味を持たれている方が多くいらっしゃるんだと感じます。やや、はやりに乗っかっている感は否めないんですが、夕日の見えるキャンプ場や海の見えるスケボーパークとか、海の見える図書館、また温泉などをよく提案されます。つくる、つくりたいは別として、そういった皆さんのお声も視野に入れながら、終日もしくは半日でも芦屋町の海に滞在できる場所づくりを町の人など巻き込んで協議できる準備をしていただきたいと思います。

では、PRに関しては町民の協力が欠かせないと考えますが、人材の確保や発掘はどのように行うのでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

人材の確保や発掘についてということですが、これまでの様々な町内の取組に参画いただいた方など、芦屋町を盛り上げようという意欲のある方々を中心にワークショップから取り組んでいきたいと考えております。こういった中で、さらに意欲のある方々にスキルアップの講習などを実施することで、中長期的な視点で人材育成に取り組んでいきたいと考えているところでございます。しかし、コロナ禍でございますので、ワークショップ等につきましては状況に応じて柔軟に対応していきたいというふうに考えております。また、不足する分野につきましては外部人材を効果的に登用していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

令和3年第3回定例会（長島毅議員一般質問）

この機運醸成事業は、第6次総合振興計画第1章の人づくりの観点からも非常に重要な事柄だと思います。長い期間にはなるとは思いますが、たくさんの町の方たちの声を聞く機会を多くつくっていただきたいと思います。

「#芦屋町」などでSNS等を拝見していると、地域おこし協力隊をはじめ観光協会さんや、芦屋町にも非常にSNS発信が得意で、いわゆる「映える」表現が上手な方々がたくさんいらっしゃると思います。また、そのほかにもクリエイティブな方々や町づくりに興味があり、ふるさとを愛している方も多くいらっしゃいます。行政での発信もなかなか限界もあるでしょうし、そういったことが好きな人、得意な人を人材として連携していただいて、ハード面とソフト面の充実を今後とも追求していただきたいと思います。

では次に要旨2、芦屋町の魅力発信に行きたいと思います。芦屋町のPRについて。

芦屋町をPRし観光振興で交流人口を増やすためには、芦屋町観光協会との連携と協働が必要不可欠と考えるが、現在の取組についてお伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

それではお答えいたします。芦屋町の観光PRに関する現状についてですが、観光PRの目的は、特に町外の方々へ芦屋町の魅力や来町のきっかけとなる情報を発信することにより、芦屋町に多くの方が訪れていただけるよう情報提供を行うものだと考えております。

芦屋町の観光PRに関することについては、芦屋町観光協会が芦屋観光サイト「アシカン」の管理運営やSNSでの情報発信、町内回遊マップやチラシなどの作成及び観光案内所の運営など、芦屋町の観光情報発信を行っております。町としましては、ホームページでのイベント・観光情報などのお知らせや、福岡県や筑前玄海地域観光推進協議会などが行う広域観光PRなどへの対応、新聞社やテレビ局などへ行事やイベントの情報提供や取材対応などを行っているところです。また、あしや砂像展やさわらサミットなどの大きなイベントについては各実行委員会とも協力し、特設サイト等を活用した情報発信を行っております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

情報発信をメインに行っているようですので、引き続き旬な情報を更新してってください。

ではもう少し、発信方法の詳細や目標などあればお伺いします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

情報発信の方法には、広報や新聞、情報誌などの紙媒体、フェイスブックやツイッター、インスタグラムなどのSNSやホームページなどのウェブ媒体、テレビやラジオなど様々なものがありますが、現在、主に情報発信を行っている芦屋町観光協会ではSNSを活用した観光PRに力を入れております。

SNSを有効的に活用するためには情報を受け取る方、フォロワーなどですが、こちらを増やしていく必要がございます。しかしながら、フェイスブックやインスタグラムなどフォロワー数や「いいね」の数が伸び悩んでいる状況であったため、観光協会とも課題や対策を検討し、まずはフォロワー数の増加を目標に芦屋町のファンを増やしていこうという考えからSNSへの投稿数を増やし、芦屋町のおすすめスポットやあまり知られていない身近な情報などできるだけ多くのジャンルを発信するように心がけ、現在運用を行っております。その結果、少しずつではありますがフォロワー数などが増加してきている状況でございます。

今後も引き続きフォロワー数の増加を目標に、魅力の伝え方や誰に何を伝えるのかという点を考えながら観光協会とも連携し、観光振興につながる情報発信を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

ありがとうございます。色々取り組んでおられることは分かりました。

しかし、芦屋町の魅力といえばやはり海ということなるとは思いますが、インターネットなどで「福岡県 海」などで検索してみると、なかなか芦屋町がヒットしてこない状況にあります。やはり芦屋町の海を含めた観光PRが、いま一つうまくいっていない気がしてしまうんですけども、現状どう捉えているのでしょうか。芦屋町公式ホームページ内にも、観光情報のページも現在は更新されておりますが、つい先日までは更新日や写真なども古く少し放置されていた印象がありました。やはり情報はフレッシュなものでないと意味がないと思いますし、特にウェブ媒体やSNSでの発信は、今行きたい人、今日行きたい人に写真などでフレッシュな情報を与えることができると思いますので、常に新鮮さを保てるようお願いしておきます。

私は、芦屋町はほかの観光地と比べると何か少し足りないものがあるのではないかと考えています。発信することだけが目的ではなく、来たお客さんに満足してもらったり芦屋町のいい印象を持って帰ってもらう、きちんと伝えることが大切だと思っています。まず芦屋町を知ってもら

う。次に、行ってみたいと思わせる。ここまでは情報発信の部分です。次に、来たときに「来てよかった」といい印象を持って帰ってもらう。欲を言うなら、芦屋町のファンになってもらう。こういった流れを意識することが大切なのではないでしょうか。観光まちづくりがうまくいっている自治体はこういった戦略がしっかり立てられ、PDCAがしっかりでき、行政と観光協会などの協力体制が整っていると思います。先ほども言いましたが、芦屋町に置き換えたときに残念ですがややできていないことがあるのではないかと感じます。町に来られた方の満足度が上がるには何が重要かと、御自分に置き換えて考えてもらいたいと思っております。そこで、いろいろと提案したいことはあるのですが時間の関係もありますので、次は来町者に対する町の魅力発信について幾つかお尋ねしたいと思います。

来町者に対する魅力発信について。特に町外の方が来町した際に、観光スポットなどに設置してある案内看板での説明や誘導は次への回遊行動を促すきっかけにもなり、芦屋町を知ってもらうためにも非常に重要であると考えます。町内に設置してある観光案内看板などの現状をお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

町内に設置してある観光看板ということでございますので、産業観光課が管理しています案内看板等について御説明をいたします。

総合案内看板が3か所。設置場所は役場駐車場、釜の里バス停付近、ボートレース芦屋外向発売所横となっており、平成9年度に設置しております。次に、公園及び散策道案内などが5か所。設置場所は夏井ヶ浜はまゆう公園、魚見公園、城山公園、狩尾岬、堂山入口となっております。設置の時期ですが、夏井ヶ浜はまゆう公園、魚見公園、狩尾岬につきましては令和元年度に改修を行っております。城山公園、堂山入口の案内看板につきましては、正確な時期は確認ができておりません。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

現状は分かりました。ありがとうございます。

それでは資料を配付しておりますので、資料①のほうを御覧ください。

とある自治体の観光看板ですが、3つほど掲載させてもらっています。きちんとですね、御自分の町の「〇〇の町」といったキャッチフレーズが描かれていたり、スポット写真も多いですし

令和3年第3回定例会（長島毅議員一般質問）

何となくまとまっている印象をお受けになると思います。町民さんが登場しているものや、例えばこういったものは芦屋町だときちんと募集したりして、お子さんに出てもらったりしても面白くないではないでしょうか。また、歴史・文化コースというウォーキングコースにして、まち歩きやドライブに誘導するデザイン等も目につきます。こういったことを参考につくると興味を持っていただけるのではないかと思います。あくまで参考としてください。

資料②を御覧ください。

こちらは芦屋町内各所の総合案内看板や観光案内看板です。新旧織り交ざっております。統一性もあまりないような印象を受けます。散策看板に関しては先ほど一昨年度に改修済みとのことですので、あまり細かいことはここでは触れませんが、やはり町のキャッチフレーズもなかったり、全体的にまち歩きに必要な情報の少なさや地図面や写真が更新されてないものもあり、今の観光ニーズに合わない場所や周囲との景観と調和していないと思う箇所もあります。例えば町内の観光案内看板をその時々ニーズや話題性に絡めて、3～4年でデザインや情報を変える工夫も必要かと考えます。

観光案内看板は、自分の経験上いろいろなスポットへ行く中で非常に重要かと思えます。そこに描かれている内容で次への行動にもつながりますし、総合案内看板の定期的な更新や、散策看板等もまち歩きやドライブへ誘導するような看板にしていきたいが、どうお考えでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

現在設置されている町内の案内看板等につきましては、位置情報の提供、施設や観光地等の説明などが主なものになっております。確かに議員がおっしゃるとおり、提供する情報の内容や見せ方などの工夫により来町された方にインパクトを与え、あそこに行ってみたいと思っていただくことや興味を持っていただくことは観光PRの視点からも重要なことだと思いますし、町内周遊や再来町を促す効果もあるものだと思います。今後、御意見も参考にさせていただき、町内周遊などにもつながるよう魅力的で効果的な情報発信となるよう努めてまいりたいと考えております。また、観光案内看板等の新設や改修については、各施設整備等も考慮した上で検討させていただきと思います。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

それでは最後、3枚目の資料③を御覧ください。

こちらは観光協会作成の既存の周遊マップです。また、右側は3つのコースが描かれている芦屋なみかけウォーキングMAPです。皆さんもう当然御存じだとは思いますが、この周遊マップですがよくできているのではないかと思います。ここに書いてありますが、「光と風に出逢うまち ゆっくり芦屋を歩いてみませんか」、このキャッチフレーズを案内看板に取り入れるのも一つだと思います。観光協会との連携で、紙媒体の周遊マップと観光案内看板との統一デザインでもいいのではないのでしょうか。せっかく既にいいものがあるので、全てを一からリニューアルするのではなく新旧織り交ぜバランスよく整理していただきたいと思います。将来的に建て替えや改修などがある場合には、たくさんのアイデアを持って検討のほうをお願いします。

もちろん、看板だけを変えたとしても町自体に魅力がないと交流人口は増えないとは思っております。しかし芦屋町には、海浜公園から芦屋釜の里そして夏井ヶ浜へ続く海岸線が、歴史的な側面またレジャースポットの側面など新旧織り交ぜた様々な顔を見せてくれる魅力ある観光メインストリートがあります。小さな町に大きな魅力、これが芦屋町だと思っています。この芦屋町に興味を持っていただき、芦屋町の魅力をより深くまち歩きなどで感じてもらえるように、案内看板の定期的な点検や情報更新をお願いしておきます。

それでは次に行きます。

現在は緊急事態宣言中で休止しておりますが、全天候型で夏でも冬でも満員の続くであろうと予想されるモーヴィとの連携は、秋から冬に向けた交流人口減の時期でも一定の町内外のファミリー層の利用が見込めるため、町への周遊PRや場内に簡易的な観光案内所設置など、かなりの有効性があるのではないかと思います。また、今、来場されている方々が、飲食店や立ち寄るスポットの情報が欲しいという意見が多くあるとも聞いています。

せっかく芦屋町に足を運んでいただいている方々に芦屋町をPRする絶好のスポットだと思うのですが、例えば芦屋ブランド認定品や芦屋産品を置いて販売したり、芦屋町を知ってもらう工夫や周遊パンフレットを配るなど、もっと積極的に観光戦略に生かすべく今から何か連携してほしいと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

モーヴィとの連携ということでございますが、今年7月にオープンしたボートレース芦屋のモーヴィはボートレース事業局に状況を確認したところ、先ほど議員もおっしゃったとおり現在は緊急事態宣言発令の影響で休館となっておりますが、これまでの来場者は1万5,000名を超え、近隣の北九州市をはじめ福岡市方面からも御来場いただいている状況であると聞いております。このように、多くの方が訪れる人気スポットであると認識しております。

また、議員のおっしゃるとおりボートレース芦屋とも連携し、モーヴィに会場された方々への町の観光PRなどは積極的に行い、魅力を伝え、町内周遊につなげていくことは必要不可欠であると考えております。現在はボートレース事業局、観光協会とも連携し、場内インフォメーションやモーヴィのブース内において、町内飲食店の紹介や観光パンフレット等の配架により情報発信を行っているところでございます。今後さらにPR効果を高めていくため、新たなパンフレットの作成や最新情報を取得できるSNSへの誘導など、町内周遊、交流人口の増加を図るため観光協会とも連携し、検討を行っているところでございます。

また、議員御提案の簡易的な観光案内所また製品の販売などにつきましては、今後ボートレース事業局とも協議をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

ありがとうございます。モーヴィに会場される方々は、芦屋町に遊びに来ているという感覚の方が強いと思われれます。レース場内で飲食するのももちろんいいのですが、できれば町を周ってもらいたい。来場者へ旬な情報を提供できるよう今後ともお願いいたします。また、こういったことは施設がオープンする前から計画的に行っていただきたいと思います。緊急事態宣言が発令されていなかったとしたら、今、今日このときもたくさんの方が会場していただろうことを考えると、すぐに取り組んでいただきたいとお願いいたします。

時間は6分残しております。最後に町長、最後に芦屋町と芦屋町の海を愛してやまない町長、今後の芦屋町の魅力発信についてお考えがあればお聞かせください。

○議長 辻本 一夫君

町長。

○町長 波多野茂丸君

萩原議員に続きましての熱心な長島議員のですね、お2人の熱意というのはですね、ひしひしと感じられるわけでございます。話を聞いておって、大いに我々は反省すべき点があるのではないかと。いい御提案もたくさんいただいておりますので、それを職員が受け止めて、すぐにはできないかも分かりませんが一つ一つ実現に向けてですね、我々は努力しなければならないと思っております。

それから情報発信のことにつきましてはですね、担当課の企画課それから産業観光課、非常に苦慮してですね、いろいろやっておるんですが、何せここ1年半ぐらいのコロナのほうでですね、いろんな仕事が、やらなければならない業務が停滞しておるわけでありまして。「もし」という言葉

令和3年第3回定例会（長島毅議員一般質問）

は駄目なんだろうが、コロナがなければですね、あの勢いでかなり計画が進んだのではないかと私は思っておるわけであります。魅力発信についてはですね、いろんなSNSですとか皆さん方が言われたいろんな紙面だとかですね、いろんな方法があろうかと思うわけですが、何せスタッフというか、小さな町でございますんで職員もそうたくさんおるわけではないんですが、いろいろ今お話してるのは、やはり自分の家族、それから芦屋の住民の方がですね、芦屋町のいいところ、今もう皆さんほとんどスマホをお持ちですので、そういう方にぜひ芦屋のいいところを発信していただければなと思っております。

また同じことを繰り返すんですが、今日はお2人に大事な御提言をいただいたことを感謝いたします。実現に向かって精いっぱい職員一同頑張りますので、しばらく様子を見てください。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

町長の芦屋町愛が伝わる答弁、誠にありがとうございます。町長のSNSのリスタートも心待ちにしております。

コロナが収束しましたら、また芦屋町に多くの方々が訪れてくれるようお願いまして、以上で、人に町に心に寄り添う、私、長島毅の一般質問を終わります。

○議長 辻本 一夫君

以上で、長島議員の一般質問は終わりました。